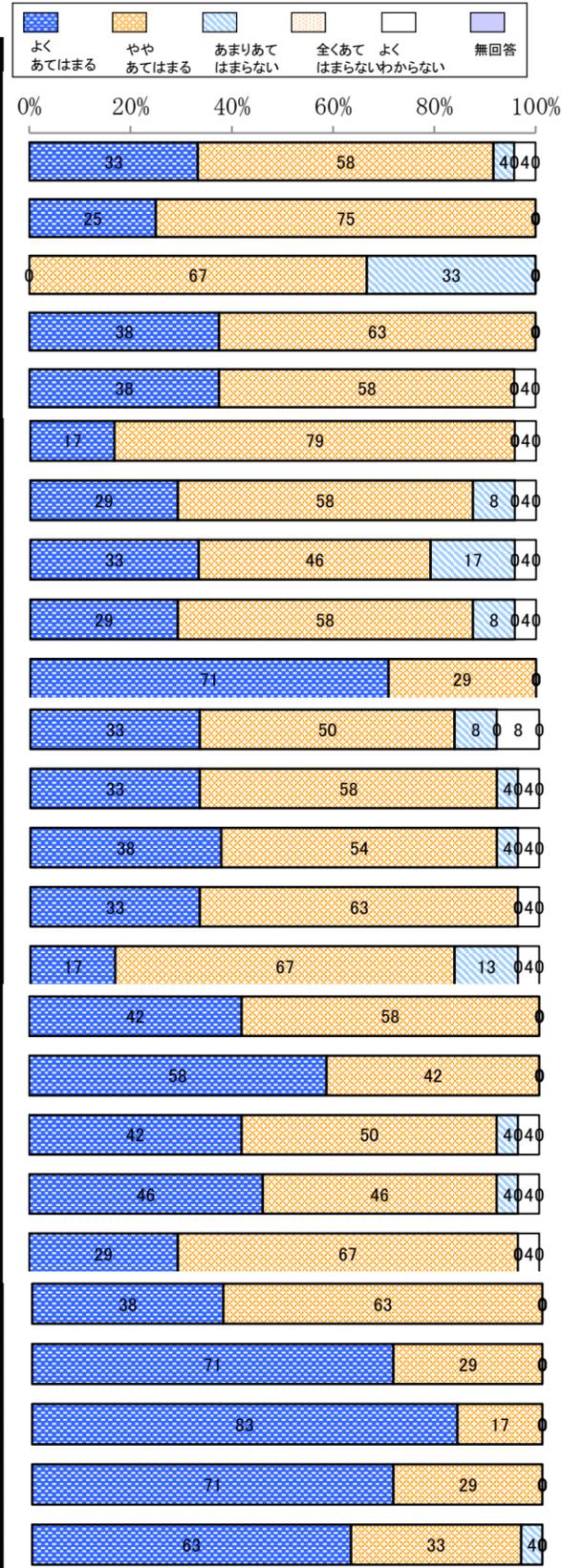


アンケートの結果			上段：児童 下段：保護者等 グラフ：教職員					
			A	B	C	D	よくわからない	無答
学校全体の様子	1	教育目標・方針	14	17	2	0	1	66
	2	児童・生徒の様子	63	26	7	2	1	0
	3	基本的な生活習慣	48	38	9	3	1	0
	4	児童・生徒理解	37	38	19	4	2	0
	5	健康・安全・安心	55	29	8	4	3	0
学力向上の取組	6	分かる授業	52	33	10	3	2	0
	7	個に応じた指導	52	32	10	2	3	0
	8	学習習慣	63	21	9	4	3	0
	9	情報教育	57	19	8	8	8	0
	10	学校図書館の活用	67	23	6	2	2	0
社会性・人間性の育成	11	人権教育	63	28	6	1	2	0
	12	道徳教育	40	39	11	4	6	0
	13	教育相談	40	25	16	11	9	0
	14	人間関係づくり	69	20	6	3	2	0
	15	自治的な活動	62	28	7	2	1	0
保護者・地域との連携	16	情報発信	45	24	9	5	17	0
	17	相談への対応	48	31	9	3	8	0
	18	学校への参加	58	24	11	3	4	0
	19	地域との連携	42	25	19	8	5	0
	20	意見の反映	51	29	8	2	10	0
各学校の特色ある教育	21	体力向上	56	25	8	4	6	0
	22	異学年交流	62	28	6	2	3	0
	23	国際理解教育	56	25	11	5	3	0
	24	学校図書館の利活用	61	25	8	4	2	0
	25	オリ・パラ教育	47	27	11	4	11	0

無効票を除く(%)



無効票を除く(%)

学校の自己評価（考察）

- ・学校便りに教育目標を掲載し周知に努めた。教育目標を校長講話で示したり、学習活動と繋げて具現化したりした。
- ・児童自身が明るく生き生きと生活できていることを実感していることよい。C、Dの児童への注目と寄り添いが必要である。
- ・教職員の基本的な生活習慣の定着意識と比較して児童の意識が高い。今後も学校と家庭が連携し推進していく。
- ・教職員の判断が昨年度に比べて厳しい。「よくわからない」という回答の減少は保護者との連携やSC等の活用の成果と考える。
- ・地域と連携した防災訓練の定着により、成果として回答と頂いている。さらに保護者への呼びかけを続けていく。
- ・児童、保護者共に「よくあてはまる」が伸びていてよい。学習の様子を積極的に示し、授業力向上に努める。
- ・保護者のややあてはまるの回答が多い。習熟度別学習の学習内容や方法を具体的に示し、取組内容の理解を促進していく。
- ・「あらかわ寺子屋」実施等による基礎学力の定着が保護者に肯定的に理解されつつある。さらなる家庭との連携が課題である。
- ・ICT教育について、日常的な活用等により保護者に認識されつつある。効果や課題等を共有し日常的な有効活用が課題である。
- ・研究発表会の成果もあり、児童・保護者・教職員共により結果が出ている。図書ボランティアによる活動の成果も大きい。
- ・道徳教育や法教育の充実等により、児童・教職員の意識と実感が高まった。保護者への周知と協力体制の構築が課題である。
- ・「道徳授業地区公開講座」の充実により理解が深まった。「特別の教科道徳」実施に向けて研修、研究を進めていく。
- ・昨年度までに比べSCを活用した児童・保護者が増えた。教育相談が少しずつ抵抗なく広く浸透している。
- ・特別活動の取り組みの充実が児童・保護者両者の実感として、理解も得ることができた。
- ・縦割り班活動や委員会など自治的活動の充実により、特別活動の活発化を図ることができた。
- ・学校便りやホームページ等の充実を三者とも昨年度以上に実感している。ホームページは周知活用をさらに工夫改善していく。
- ・三者とも概ね良好な結果が得られている。引き続き「報告・連絡・相談」体制を整え外部の声を真摯に受け止め対応していく。
- ・授業公開日の保護者参加の行事の設定は、参観人数の増加と児童の健全育成において相乗効果を生んでいることが分かる。
- ・教職員の意識が年々高まっている。地域行事や見守りなどの場面で児童が地域に育てられていることを実感した成果である。
- ・保護者の「よくわからない」という回答を減らすため、反映した意見を保護者会などで示すなど全体への周知に努めていく。
- ・AKDや朝遊び、オリ・パラ教育の推進を、三者共に認識する結果が示された。成果を数値で示せるよう工夫改善していく。
- ・縦割り班活動や展覧会の縦割り鑑賞などの成果を三者とも実感する結果が示された。今後も計画的に実践していく。
- ・英語教育推進リーダーの活用により計画的に実施することができた。他教科や領域と関連させる取組が課題である。
- ・研究指定校としての取り組みを三者共に成果として捉えている。様々な教育活動での活用を実感する結果が示された。
- ・オリ・パラ教育の推進により、三者共に成果のある実践とする認識が昨年度より増えている。今後も工夫改善していく。

